



文は信なり

日本クリスチャン・ペンクラブ（略称 JCP）発行・責任者 池田勇人
 事務局 〒131-0043 東京都墨田区立花 4-6-13 三浦喜代子方
 TEL&FAX 03-3616-8621 郵便振替 00170-0-161838
 ホームページアドレス・<http://jcp.daa.jp>

大空に・大地に・

人の心に・書き記す

川上 与志夫

文章を書くことは怖い。不確実なことや本気でないことを書くわけにはいかない。怖いわけは、文には人柄が表れ、それによって人格が問われるからだ。「文は人なり」と言われる所以である。

文には形式と内容が備わっていないければならない。その内容は書く人の思いと歩み、すなわち、書く人の人生そのものである。

文武は車の両輪

書物から学んだだけの兵法では、敵に勝てない。戦いには実戦の力や術も必要なのだ。名将は文武両道を備えることによって、戦に勝つ。

人生もこれと同じ。学んだり語ったりするだけであつたなら、「論語読みの論語知らず」になってしまう。そこには生きた命はない。語ったり書いたりしたことを実践して、人ははじめて本物の人間になる。「言行一致こそ人の道」という諺のとおり、言行不一致はその人の人柄を貶（おとし）めてやまない。

大切なのは、まず「読み」の実力を養うこと。ここでいう「読み」とは、書物だけではなく、社会情勢や人の心など、あらゆることから真情を読みとることである。特に人心を読む力をつけることが肝心だ。なぜなら、ここにこそ行為の糸口があるからだ。

宮沢賢治の『雨ニモマケズ』の教節は、「読み」から「書き」への移行をうたっている。

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシ・ワカリ

ソシテ ワスレズ

非常に印象的なのは、「よく見、聞きし、分かり、そして忘れず」というくだりである。見て、聞いて、分かるということは、よく読むということにほかならない。

各地で大地震があつた。被災した人たちは、どんな思いであろうか。その不安、苦しみ、悲しみをよく読みとって理解し、**忘れず**に心に留める。あるいは、いま目の前にいる人の表情や言動から、その心を読み取る。これが書くという行為につながっていく。

賢治の詩は、つぎのように具体的行動へと描写がつづく。

東ニ病氣ノ子供アレバ 行ッテ看病シテヤリ

西二疲レタ母アレバ 行ッテソノ稲ノ束ヲ負イ

南ニ死ニソウナ人アレバ 行ッテコワガラナクテモイイトイ

北ニケンカヤソショウガアレバ ツマラナイカラヤメロトイ

賢治は「よく読み」、つぎに「よく書く」ことに移行する。「ここでいう「書く」とは、大地に足跡を残すことである。これが愛の行為となつて、人生は全(まっとう)うされる。

紙に文章を書くことは、言うまでもなく大切なことだ。けれど書き言葉には真実や事実だけでなく、想像や希望などのほかに虚構や偽りなども入り混じる。行為には、善きにしる悪しきにしる、事実としての足跡だけが残る。

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである」第二テモテ四・7

パウロ、マザー・テレサ、井深八重など、大空や大地や人の心に証しを書き記した人は多い。

人生は芸術作品の完成を目指すものだとも言われている。大空と大地と人の心に、私なりのささやかな絵文字を刻むこと……。いまこの一点に私は心を据える。

願う二つのこと

池田勇人

(関東ブロック一月例会時の
メッセージから)

「ふたあつ ふたあつ なんてしょね
お目々がいちに ふたつでしょ
お耳もほらね ふたつでしょ」

(まどみちお 「ふたあつ」)

この童謡の示す二つは、物の一対を表す双数です。二つで一つのもものは、他に表と裏、男と女、鍋とフタ、箸などたくさんあります。

「不真実と偽りとを私から遠ざけてください。貧しさも富も私に与えず、ただ、私に定められた分の食物で私を養ってください。私が食べ飽きてあなたを否み、主とはだれだと言わないために。また私が貧しくて、盗みをし、私の神の御名を汚すことがないために」(箴言三〇・7〜9)とのアグルの祈りも、全く別の二つでなく、一つのことの両面です。奉仕者たる者の内面と外面、整えられるべき性質と生活と言うこともできるでしょう。

イシユマエルの子孫の住んだアラビヤ半島の中で、彼の願った二つの事に思いを巡らすと、神を恐れぬ偽善と富を求めての独善とがまかり通っていたことがわかります。そんな中で自分は流されず、神と人との誠実に生きてゆきたい、との思いから出た二つの願いに私達も学びたいものです。自分にふさわしい「願う二つのこと」は何か、主よ、どうぞお示しくださいと祈り求めましょう。

たとえば旅ということに的を絞れば、「神様、天国への旅路につく前に、二つのことをおねがいします。まだ見ぬ親の故郷を訪ねさせてくださり、また子供達に私の故郷を見させてください。もう一つは、主イエスの歩まれた聖地の空気を、この者にも吸わせてください。主にもっと近づきたいに……。」という祈りが生まれてきます。

祈るための祈りにチャレンジしてみませんか。



ブロック便り

各ブロックから本年度の活発な活動予定が届いています。

*関東ブロック

三浦喜代子

○九年一月二四日の運営委員会において、本年度の活動案を出し合い、検討協議しました。

今年も隔月の例会とその間の月の二つの学び会を中心に進めていきます。

*例会について

例会は一月、三月、五月、七月、九月、十一月。原則として奇数月第四土曜日。

*学び会について

二つの学び会『詩歌の集い』と『童話とエッセーの集い』は例会と例会の間の月を用い、日程は今まで通りそれぞれの集いが自由に決める。

これらの学び会が充実してきました。それぞれに十名ほどのメンバーが集い、課題の主題にちなんだ作品を持ち寄り、読み合っ

て合評します。詩歌の集いでは、すでに作品集を発行しました。散文のほうもだいたい作品集がた

てきたのでそのうちに作品集を考えていきます。

*一泊研修会について

五月に一泊研修会（グリーンジョイフル）を計画しました。

三回目になる一泊研修会は会員の大きな喜びと楽しみの時です。課題作品を中心に集中して学び合えるのは大きな魅力です。また、あかし文章への情熱と使命感が強められ、文章力向上のためにも効果があります。今年も、新緑の美しいころに予定して進めています。主題は『私と聖書の人々』に決まりました。

*会員の近況と状況

会員の動向としては、ここ数年、かつての有力メンバーたちの老いが進み、例会出席もままならなくなりました。寂しいことですが、そんな状況にありながらもお便りをくださり、会費や献金を送ってこられました。日々、JCPのために祈っていますとお声も聞こえます。JCPはこうした方々によっても支えられているのです。感謝です。

うれしいことは、昨年から数名の新しい方が加わっていることです。ホームページの影響も大きいものがあります。昔ながらの会員の地道な努力である口コミと報道や情報の最先端であるITが用いられています。考えさせられる興味深い現象です。

*中部ブロック

中部ブロック 坂口良彬

二〇〇九年は、二月二十一日（土）の第一回例会を皮切りに、偶数月に夏期研修会を含めて、例会を実施していく。

三浦綾子の「銃口」を学び、作品講評を繰り返していき、年末には文集「屋根」を作成する。

なお、案の段階であるが、夏期研修会は、

南山大学の付属施設

南山学園研修センターで実施する。

八月五日（水）、八月六日（木）の両日、関西ブロックと合同で、「主のいやし」というテーマで対処していく予定である。

*関西ブロック

小川 恵子

二月十四日、大津教会愛光センターで本年最初の例会と総会が持たれた。活発な意見が飛び交い、いろんなことが語り合われた。

本年も、例会は年五回、二月、四月、六月、九月、十一月に行う。今までは第二土曜日だったが、四月からは第三土曜となる。

八月五日（水）六日（木）と、中部ブロックと合同夏期研修会を名古屋の南山大学の施設で開催する予定。テーマは「主のいやし」で、楽しみにしている。

毎年と同じく目標は「関西ブロックの充実」で、前向きに努力して行きたい。

本年度の方針としては「書くこと」に重点を置く。書くことによつて自分の考えを確かめ深めたい。

また、長いこと続いてきた久保田先生の著書『日本の作家とキリスト教』も、終わりに近づいた。次にどのような課題が与えられるかを期待している。

このような充実した学びの場を、十名そこそこの会員で聞くのは勿体ないといつも思われる。会員増強はこの数年来の重要な課題である。どのようにして会員を集めたいのか、考え実行したい。関西だけのホームページを作れないか、本部から頂いているパンフレット「文は信なり」が七、八年前の発行で内容が古くなっている。

新しいのが必要かどうか検討しなければならぬ。何よりも、新しい会員が与えられるように祈り続けたい。

数年前からの会員の文章を集めて文集を発行したいと願っているが、それを更に進めて行きたい。そして、これら一切のことを神にお委ねして、神様が方向付けをしてくださった道をお導きに従って歩みたい。

***本部署務局より**

三浦喜代子

*主の〇九がスタートしました。

*本年度より左記の方々が理事会のメンバーに決まりました。

理事長 池田勇人

副理事長 川上与志夫 (新)

理事 浅見 鶴蔵

西山 純子

三浦喜代子

坂口 良彬 (新)

大田 正紀 (新)

顧問 長谷川乃武男

玉木 功

久保田暁一

*理事会のために祈りましょう。JCP全体が理事会を中心に秩序をもつて運営され、JCPの働きが主の栄光のために用いられるように祈りましょう。

*会員一人一人がJCPのモットーである『あかし文章』を学び、書き、広めることに専念できるようにお互いに祈り合ひましょう。

*各ブロックの活動がさらに充実し、新しい方々が入会できるように努力しましょう。

*新入会者をご紹介します。

四〇代、五〇代の方々は、歓迎しましょう。

土屋理恵氏 (関東)

山本千晶氏 (関東)

有賀麗子氏 (関東)

*09年より年会費が三〇〇〇円になりました。各ブロックでまとめてお送りください。なお、昨年度分未納の方はご確認の上、同封の振替用紙で納入してください。

『春』 原毅

春めいいてきまきた。喜びです。芽生えを見て 讚えています 又 楽しんでます。

注・上記の作者原毅兄は長野県小布施在住。90歳を迎えておられます。週に一度は本部宛に詩を送ってこられます。JCPの大先輩です。